

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	◎	*	*
	○	商店街（代表者）	・客が増えており、業種に限らず売上の増加が期待される。
	○	一般小売店〔化粧品〕 （経営者）	・母の日のギフトや個人間のギフトなどの需要拡大が見込まれ、今後の伸びが期待できる。また、値上げによる商品単価の上昇が来客数の減少要因になるものの、ブランド力のある高額商材に大きな影響はなく、客単価の上昇につながっている。値上げが客離れにつながらないことが予想されるため、今後も売上は微増となりそうである。
	○	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・5月になれば、進物商材が若干動き出すため、先行きに期待している。
	○	百貨店（サービス担当）	・ゴールデンウィーク前に食料品フロアがリニューアルオープンすることで、新たな客層の獲得につながり、来客数や売上の確保に貢献する。
	○	百貨店（管理担当）	・売場の見直しによるプラス効果が見込まれる。
	○	百貨店（外商担当）	・近隣の商業施設では新店舗の開業が相次ぐ予定で、エリア全体への来客数が確実に増加する。
	○	スーパー（店員）	・大型連休中の天候が良ければ、バーベキュー食材がよく売れるほか、小玉スイカの動きも良くなる。
	○	スーパー（企画担当）	・ゴールデンウィークから初夏にかけて、売上が大きく伸びる時期であり、特に総菜部門では米飯類の動きが堅調である。直近では改装店舗内にベーカリーを新設し、店内で製造するこだわりパンの売上も増加傾向にある。今後は生鮮部門の売上獲得が重要となる。
	○	コンビニ（経営者）	・セルフレジの導入で、客の買物のスピードを上げる。その分、商品をよくみてもらう時間を作ることで、購入量が増えることを期待したい。
	○	コンビニ（経営者）	・祭りの季節が近づいているため、寄り合いなどが始まる時期になる。
	○	コンビニ（店員）	・ゴールデンウィークを控え、これからますます旅行や行楽に出掛ける機会が増えるため、忙しくなる。手軽に食べられるレジ横のホットスナックは大人気であり、かなり値上げが進んでいるが、売れ続けている。
	○	家電量販店（店員）	・家電量販店では、新たな省エネ基準の施行を背景に、エアコンの需要が高まっており、夏に向けてかなりの販売が見込まれる。
	○	家電量販店（企画担当）	・エアコンに加えて、LED照明の販売もこれから伸びると予想される。ただし、中東問題の影響によるナフサ由来の関連資材不足が課題である。値上げ以上に品薄への懸念が大きく、水回りのリフォームも完工できるかが不安である。
	○	乗用車販売店（役員）	・数年ぶりに新型モデルの発売予定があり、現状よりも回復すると予想される。ただし、世界情勢や経済環境が不安定な上、国内の自動車業界は新車登録台数の前年割れが続いている。単価の高い耐久消費財の購買需要が落ち込んでおり、先行きが見通せない状況にあるため、高付加価値商品の発売や経済状況の好転といった変化がない限り、大きな回復は望めない。
	○	乗用車販売店（マネージャー）	・前年は大阪地区の方が景気は好調であったが、今年に入り、少しずつ当地区の好調が目立っている。
○	高級レストラン（スタッフ）	・今年も当社商品が審査会で入賞したこともあり、従来の準備を継続すれば、成果もついてくる。	
○	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊は、インバウンドの団体客の受注と、国内の個人客の予約が早くから入っており、それに伴い単価も上がっている。食堂部門もイベントを企画しており、直近の予約と併せて前年比でプラスを見込んでいる。一方、宴会部門は例年並みの動きとなっている。	
○	都市型ホテル（フロント）	・5月は好調となる兆しがみられるが、オフシーズンである6月は厳しい。	
○	通信会社（社員）	・タブレット端末やスマートフォンなどの買換え需要が増えており、それに伴うインターネット回線の高速化ニーズは、更に高まることが予想される。	

<input type="checkbox"/>	一般小売店〔野菜〕（店長）	・中東情勢の問題が解決するまでは、今の状態が続く。
<input type="checkbox"/>	百貨店（売場主任）	・景気の見通しが立たないため、富裕層でも様子見となり、購入を即決しないケースが増えている。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・為替や株価の変動による影響が大きいほか、中東情勢や日中関係の動向にも大きく左右されるため、今後の見通しは非常に不安定である。
<input type="checkbox"/>	百貨店（広報担当）	・中東情勢の影響が長引けば、海外旅行などの減少が予想され、内需の押し上げにつながる可能性がある一方、物価の上昇が懸念材料でもある。
<input type="checkbox"/>	百貨店（商品担当）	・株高の効果で、宝飾品などの外商売上は好調であり、インバウンドも堅調な動きが予想される一方、前年の大阪・関西万博の反動による影響は予測が難しい。万博に向かっていた消費が小売関連に戻ってくるの見方もあるため、販売促進策の強化による来店促進が重要となる。
<input type="checkbox"/>	百貨店（売場マネージャー）	・今後も不透明な消費環境が続くものの、消費を大きく左右する要因は現段階では少なく、今の景況感が続く予想される。
<input type="checkbox"/>	百貨店（マネージャー）	・社会情勢に変化がなければ、インバウンドの動きが中国を中心に活発化すると予想されるが、中東情勢の今後が全く見通せず、インバウンドや国内客への影響も予測できない。ただし、現時点での影響は意外に軽微である。
<input type="checkbox"/>	百貨店（販促担当）	・依然として政情不安が続いているが、大きな変化の要素は見当たらず、例年並みの推移が予想される。今後の起爆剤として、催事に力を入れていく予定である。
<input type="checkbox"/>	百貨店（宣伝担当）	・今後は燃油サーチャージの上昇により、インバウンドは減ると予想されるなか、国内客への営業施策を集中的に実施するとともに、経費を削減している。ゴールデンウィークから夏休みにかけての行楽シーズンの需要を取り込めれば、現状は維持できる。
<input type="checkbox"/>	百貨店（マネージャー）	・中東情勢の先行きが不透明で、当面は節約志向が続くと予想されるが、食品売場の一部改装を予定しているなど、好調な食品部門の更なる強化を図る。
<input type="checkbox"/>	百貨店（マネージャー）	・大きな流れは変わらないが、更なる富裕層の取り込みが求められる。また、コトを中心とした販売促進策による中間層の集客に加え、購買姿勢に変化が出てきたインバウンドの集客がポイントになる。今後は行楽に負けない、魅力あるコンテンツが鍵となる。
<input type="checkbox"/>	百貨店（営業推進担当）	・売行きは商材ごとに違いはあるものの、大きな変化はないとみられる。一方、今後はエネルギー関連の値上げが消費マインドに影響を及ぼす可能性がある。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・良くなる理由が見当たらない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・競合店が減ることはないため、今後も現状が続く。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	・中東情勢による物価の上昇等から、生活防衛意識は高いままとなっている。賃上げやボーナスの増加といった好材料もあるが、悪材料を打ち消すまでには至らず、依然として節約志向は強いままとなる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・更に物価の上昇が進むため、この先が心配である。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・来客数は伸びる要素が余りないが、客単価は相変わらず上昇傾向が続く。ただし、以前よりも値上げ商品が減っているため、小幅な上昇にとどまる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	・先行き不透明であり、景気の回復は期待できない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・中東情勢により石油関連の先行きが懸念される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・エンジンオイルなどの油脂類など、頻繁に使う商品がことごとく値上げとなっているほか、在庫不足の波にさらされている。こうした動きがいつまで続くのか、見当が付かない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・中東情勢の行方が見通せず、問題が長引いた場合の国内経済への打撃は大きい。ただし、直接的な影響はまだ表面化しておらず、もう少しばかりは現状維持が続くと予想される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・地政学的な問題が落ち着き、物価や金利の上昇が安定するまでは、景気の好転は厳しい。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・物価上昇などの状況が続けば、現状と同じく、良くならない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔食品〕（経営者）	・資材価格の高騰や原材料不足により、販売量の変化以上に利益が圧迫され、生産にも問題が起こる可能性が高い。

□	その他専門店 [宝飾品] (販売担当)	・多少の地金相場の低下では、引き上げた設定価格を見直すことはないため、客の動きは変わらず、利益もそれほど変わらない。
□	その他専門店 [医薬品] (管理担当)	・花粉症も落ち着き、医薬品や健康食品の売上減少は避けられない。一方、気温の上昇に伴い、カウンセリング化粧品や化粧品雑貨などの売上が順調に推移するなか、今後の季節商材への切替えによる売上増を期待したい。全体としては、食品や生活必需品の値上げで客単価は上昇しているものの、買上点数に変化はないことから、今後も現状の動きが続くとみられる。
□	高級レストラン (企画)	・インバウンドの減少を国内旅行の需要増でカバーしており、今後も当面はこの状況が続く見込みである。
□	一般レストラン (店員)	・引き続き物価上昇の影響があり、現在も来客数が減少している。これ以上悪くなるか、それとも良くなるかは不透明である。
□	都市型ホテル (客室担当)	・現状が底であると認識しており、業況が上昇に転じるか、僅かに上向くことが予想される。
□	旅行代理店 (支店長)	・中東情勢については先行きが見通せず、客の心理は悪化する。新たなイベントや消費マインドを高めるような大型行事もなく、状況が好転する兆しはみられない。
□	旅行代理店 (支店長)	・中東情勢の行方に左右されるが、燃油サーチャージの上昇による影響が出てくる。
□	タクシー運転手	・観光地ではインバウンド効果で利用率が少し上がるものの、国内客にとってはタクシーがぜいたくな乗り物となっている。
□	通信会社 [貴金属オークション] (経営者)	・やや悪い傾向が続くと予想される。
□	競輪場 (職員)	・例年は良くなる時期となるが、中東情勢の行方などの様々な要素があるため、先行きが見通せない。
□	競艇場 (職員)	・賃上げや物価の上昇、海外情勢の変化、政治的な影響など、様々な要因がどのように作用するのか、見極めるのは難しい。
□	その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・国際情勢の変化や物価の上昇で、経費は増えているが、催事の開催は順調であり、観客の動員も順調である。
□	その他レジャー施設 [球場] (経理担当)	・プロ野球の交流戦のほか、家族向けのイベントやコンサートが開催されるため、多くの来場者が予想される。
□	住宅販売会社 (経営者)	・仕入の再開が一時的なものにとどまれば、厳しい状況は変わらない。
□	住宅販売会社 (企画担当)	・物価上昇による建築費の上昇や、従来の地価上昇に加え、中東情勢の変化による物資不足や価格上昇が響いており、好転の兆しがみえない。
□	その他住宅 [住宅設備] (営業担当)	・今年度も新入社員の入社はゼロであり、社内の平均年齢だけが上がる状況は良くない。中途採用や派遣社員の採用でも、期待できる人材が集まることはなく、先行きは不透明である。
□	その他住宅 [情報誌] (編集者)	・富裕層の間でも、現状の不動産価格の水準を不安視する動きがあり、物件の選別が進んでいる。それに伴い、物件による好不調の差が大きくなる。
▲	商店街 (経営者)	・物価の上昇による影響が出る。
▲	一般小売店 [花] (経営者)	・資材価格やガソリン代、仕入れ経費などが上がっているが、販売価格は変わらず、利益が減少している。花は生活必需品ではないため、今後は販売量の減少も見込まれる。
▲	一般小売店 [時計] (経営者)	・世界情勢の変化がどのような結末を迎えるかが不安である。特に、猛暑を超える酷暑の時期を迎える頃に、世界情勢がどうなっているか不安である。先行きには心配しかない。
▲	一般小売店 [鮮魚] (営業担当)	・インバウンド来店のパークが終了するため、売上は減少する。
▲	一般小売店 [手ぬぐい] (経営者)	・石油価格の上昇に伴い、様々な仕入商品の価格が高騰し、買い控えにつながっている。
▲	百貨店 (売場主任)	・中東情勢が不透明で、資材価格の高騰によるスタグフレーションの可能性も高まっており、買い控えや節約の動きが客の購買行動にみられる。
▲	百貨店 (企画担当)	・各種資材価格の高騰や、入荷遅れなどによる経費の増加が見込まれる。

▲	百貨店（販売推進担当）	・中東情勢の変化に伴う原油問題で容器が不足し、食料品や生活雑貨を中心に販売停止や価格高騰などが相次ぐと予測される。それにより、景気も厳しい状況となる可能性が高まっている。
▲	百貨店（外商担当）	・国際情勢の先行きが全く見通せず、今後はラグジュアリーブランドの売上減少が予想される。インバウンドも中国からは依然として少ないほか、欧州からの動きも少なくなる。
▲	百貨店（商品担当）	・中東を含めた海外情勢の変化に伴う、資源価格の上昇や材料不足、物価の上昇が、本格的に日常生活に悪影響を及ぼし始める。
▲	スーパー（経営者）	・燃料価格や商品価格の高騰で、消費マインドは冷え込んでおり、先行きの見通しは厳しい。
▲	スーパー（企画担当）	・原油の供給事情の悪化により、石油製品の不足や価格の高騰につながり、消費マインドが悪化する。
▲	スーパー（販売促進担当）	・中東情勢が見通せないなか、回復傾向は見込めない。現状維持か、更に悪化する可能性が高い。
▲	スーパー（開発担当）	・中東情勢が不安定で、原油も入ってこない。このような状態が続けば、石油関連や食料品などは値上げが進む一方、賃金は上がらないため、景気が良くなるわけがない。
▲	スーパー（社員）	・客の節約意識は当面続くと予想される。値上げ局面での同業他社との価格競争は体力勝負でもあり、厳しい状況となる。
▲	スーパー（企画）	・中東の海峡の封鎖で、ナフサ価格や電気代を含めた、様々な部分での価格高騰につながっている。食品のトレーやビニール袋、手袋、買物かごの価格や、電気代も過去に経験のない水準となるなど、様々な値上げが進むことで景気は悪くなる。
▲	コンビニ（経営者）	・国内外の情勢の変化により、今後どうなるかが不安である。
▲	コンビニ（店員）	・梅雨の時期は来客数が減る。
▲	コンビニ（店員）	・独身税の導入が店でも話題となり、客からも節約を始めるといった声が出ている。コンビニでの買物も最小限にとどめるといった声もある。
▲	衣料品専門店（店員）	・閑散期となるため、セールなどで売上を増やす見込みである。
▲	家電量販店（店員）	・中東情勢が落ち着かない限り、物価の上昇で景気が悪化することは間違いない。
▲	乗用車販売店（経営者）	・中東の海峡の通航規制が徐々に経済に悪影響を及ぼしているなか、先行きは極めて不透明である。
▲	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・有名なメーカーへの注文は通常どおりであるが、そうではないメーカーはプラスチック容器などの注文が停止となるケースもある。今後半年間で商品が調達できなくなり、在庫が枯渇する不安が高まっている。
▲	その他小売〔ネット通販〕（管理担当）	・中東情勢の先行き不透明感が強い。
▲	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・送料の無料キャンペーンが終わる時期であり、受注はしばらく減少すると予想される。
▲	一般レストラン（経営者）	・石油関係の不安な状況から、物資不足が懸念され、買占めも始まっている。それに伴う値上げや品不足が起きているなど、仕入れに悩まされる日々が続いている。来店客の傾向としては、自己負担の場合はできるだけ低単価品を選び、会社の経費の場合は、それなりの単価で利用する傾向となっている。協議が始まっている消費税率の引下げ問題も含め、まだ先のみえない不安な状況のなか、不景気が続くと予想される。
▲	一般レストラン（企画）	・原油の安定供給に懸念があるなか、原油価格の高騰による運送費の上昇で、食品や消耗品などにも影響が出ており、経営を更に圧迫している。来客数は前年並みを維持しているが、今の状況が続けば、外食の客足は鈍くなることが予想される。
▲	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・現政権になり、国内の問題がいろいろと動きそうな気配であったが、資源の少ない我が国では、今後は一気に様々な負担が増えそうである。

▲	観光型ホテル（経営者）	・5月以降は前年の大阪・関西万博による団体特需の反動が出るため、販売量の計画値を下げている。中東情勢の影響は今のところみられないが、問題が長期化すれば、更なる旅行控えにつながるおそれがある。
▲	観光型旅館（経営者）	・6～7月の宿泊予約の進捗が、前年比で非常に悪い。
▲	観光型旅館（経営者）	・予約状況が悪いため、景気の回復には時間が掛かる。
▲	都市型ホテル（管理担当）	・価格の高騰に対する、有効な対応策がない。
▲	都市型ホテル（客室担当）	・海外情勢も先行き不透明なままである。
▲	都市型ホテル（客室担当）	・夏休み期間の予約の取り込みは比較的好調であるが、販売室数や販売単価は前年を下回っている。
▲	旅行代理店（役員）	・各航空会社は5月から燃油サーチャージの引き上げを決定しており、コスト削減のための航空便運休も行っているなど、海外旅行の販売に影響が出ている。さらに、今後の物価上昇によって、旅行の中止や行き先を近場に変更する動きも予想されるなど、旅行市場への影響は大きい。
▲	通信会社（社員）	・年間を通して、通信大手による他社からの乗換え客の獲得要請は厳しいが、ボーナス商戦前の閑散期でもあり、販売は落ちる。
▲	通信会社（役員）	・スマートフォンの購入意欲は依然として低水準である。ガソリン代や光熱費などの生活費に余裕が出るまでは、スマートフォンのような高額なし好品への支出は後回しにされやすい。
▲	通信会社（営業担当）	・引っ越しなどの環境の変化が落ち着き、問合せが減る時期になっている。3か月前と比べて、約95%の水準になると予想される。
▲	観光名所（企画担当）	・春休み中にも良い日は数日あったが、なかなか回復の兆しがみられない。
▲	ゴルフ場（支配人）	・原油価格の上昇で燃料価格の不安定な動きが続くなか、全ての商品の仕入価格が上昇している。客への価格転嫁が難しい状況で、今後もやや悪くなる。
▲	その他レジャー〔スポーツ施設〕（経理担当）	・中東情勢の先行きが懸念される。
▲	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・国内客については、ガソリン価格の高騰や物価上昇の影響による、レジャーマインドの低下が懸念される。インバウンドでは、燃油サーチャージの上昇や不安定な国際情勢による影響を危惧している。
▲	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・退会が止まらず、入会者の数を上回っているなど、家計の教育への支出が後回しになっている。
▲	住宅販売会社（経営者）	・これ以上景気が上振れする要素は見当たらず、中東情勢による物価の上昇も予測されるため、逆に冷え込むと予想される。
▲	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・原油の供給に不安定感があるため、消費マインドは更に低下する。
▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・今後も建築単価や住宅ローン金利の上昇傾向が続くと予想される。
×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・石油問題や物価上昇によって悪化する。
×	一般小売店〔雑貨〕（店長）	・原油の輸入量が減少し、買いだめの動きが始まる。
×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・特に若い世代が今後の生活に不安を感じているため、国内需要の活性化を図る必要がある。
×	一般小売店〔呉服〕（店員）	・世界情勢の変化で、高級品の呉服はどうしても買い控えの対象となる。
×	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・中東情勢などの先行き不透明な状況が、長期化する可能性がある。
×	衣料品専門店（経営者）	・食料品などの物価上昇により、主婦などは自分の洋服にお金を掛ける余裕がない。
×	衣料品専門店（経営者）	・消費者は中東情勢の変化による異常なインフレに備えており、購買意欲がそがれている。

	×	家電量販店（店員）	・リフォーム関連でも浴室やキッチンなどは余裕を持って商談できるが、生活に不可欠なトイレなど、急ぎの買換えが必要な設備については厳しくなる。仮に商品の供給が再開しても、工事の依頼を受けられない場合があるなど、回復までには時間が掛かる。
	×	住関連専門店（店長）	・輸入業では、原油価格の上昇で、海外輸送費を中心としたコストの増加が予想されるため、販売価格も上がり、更に売りにくくなる状況が続く。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・中東情勢の変化に伴う物価上昇について、影響の及ぶ範囲が拡大することは確実である。その影響が長引けば長引くほど、経済への打撃が大きくなるため、企業業績や個人消費は悪化し、景気は確実に悪くなる。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・物価の上昇で、必要最低限しかお金を使わない傾向にある。
	×	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・工事の影響で店舗前の通路が狭くなる予定であり、売上や来客数に大きな影響が出る見通しである。
	×	都市型ホテル（営業担当）	・世界情勢が不安定なため、先行きは楽観できない。
	×	通信会社（経営者）	・建築現場では工事が止まるケースが出そうであり、円安傾向も変化の兆しがみられない。
	×	遊園地（経営者）	・石油価格や電気代の上昇など、中東情勢の変化による家計への具体的な影響が始まる。
企業 動向 関連 (近畿)	◎	木材木製品製造業（経営者）	・不安定な中東情勢に伴う円安の動きは、輸入販売事業にとっては良くないが、営業努力で幾つかの新規事業や販売商材が出てきたため、何とか成功に向けて努力している。今後、輸出案件が出てきて前に進めば、売上、利益共に良くなる。
	○	食料品製造業（営業担当）	・物価が上昇しているが、徐々に客も価格に慣れてくる。気温が上がるにつれて、売上は少し良くなると予想される。
	○	輸送業（営業担当）	・近年は大型の物流倉庫が増えるなど、拠点の集約化が進んでいる。トラックの稼働台数を減らすことで、ドライバー不足は解消されつつある。
	□	繊維工業（総務担当）	・所得の増加が景気の下支えとなっている以上、物価の上昇にはつながりやすいものの、和装ではコストの増加に伴う価格転嫁が進んでおらず、厳しい状況が続いている。
	□	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・受注量に変化はないが、コストの増加による利益の圧迫が懸念される。
	□	化学工業（製造担当）	・前年度から続く研究分野での受注量の減少は、今年度も続く見込みであることから、景気の回復は見込めない。
	□	金属製品製造業（経営者）	・急激に動き出すという期待は乏しい。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・小口案件の動きは続いているため、しばらくは現状の景気が続く。
	□	一般機械器具製造業（設計担当）	・物価の上昇で実質賃金が伸び悩んでおり、周囲では節約傾向が高まっている。実質賃金が上がれば、景気が回復に転じる期待も出てくる。
	□	輸送業（商品管理担当）	・繁忙期の3月、4月の売上が余り伸びなかったため、繁忙期終了後の売上にも変化はない。
	□	広告代理店（営業担当）	・6月ごろまでは、例年よりも引き合いの動きが鈍いと予想される。
	▲	食料品製造業（管理担当）	・前年は大阪・関西万博の開催効果で売上も好調であったが、今年は前年ほどの売上は期待できず、前年割れとなる見込みである。
	▲	繊維工業（管理担当）	・中東情勢の変化による影響が、どの程度及ぶかが不安である。
	▲	化学工業（企画担当）	・例年の傾向と異なり、年始以降の販売の減少がみられず、好調に推移している。ただし、今夏も猛暑が予想されるほか、原材料価格の高騰や不足が予想されるため、見通しは厳しい。
	▲	プラスチック製品製造業（経営者）	・資材の不足により、生産活動がどの程度維持できるのか、見通しが立てにくい。直近では受注の先食い感もあるため、2～3か月先は受注の減少が予想される。
	▲	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・中東情勢が不透明で、石油製品関連の価格上昇による、更なる物価上昇が懸念される。不安要素が多いなか、2～3か月先の景気はやや悪くなると予想される。

	▲	電気機械器具製造業（経理担当）	・樹脂成型品を始めとする石油関連製品の価格が上昇しているほか、パソコンのメモリ価格が異常に上昇している。AIの利用拡大でサーバーの増設が相次ぎ、品不足につながっているが、このままでは製品に使用するメモリが入手できなくなり、生産が立ち行かなくなる。
	▲	建設業（経営者）	・住宅関連の資材不足や、受注見合せの影響が出始めている。この先は契約延期となる案件も発生する見通しである。
	▲	建設業（経営者）	・材料価格の値上がりで、取引先の発注が止まる可能性がある。
	▲	輸送業（経営者）	・前年や前々年の事例から、社員の健康を考えれば、暑い時期に無理に仕事を取れない。また、他の運送業者が断った仕事も、ある程度は引き受ける必要があるため、意識的に仕事を減らし、余裕を残しておく必要がある。暑い時期には運送業の採算は度外視せざるを得ない。
	▲	輸送業（サービス担当）	・中東情勢が落ち着かなければ、今後は更に影響が出る懸念もあり、消費の増加にはつながらない。
	▲	輸送業（営業担当）	・家電に不具合が多いため、売上の減少が懸念される。
	▲	金融業（営業担当）	・中東の海峡封鎖の影響で、ナフサ関連の商品の仕入れが難しくなっている。こん包用のビニールシートなどの調達も難しくなっており、納品できないケースも想定されるため、あらゆる業種に影響が出てくる可能性がある。
	▲	金融業 [投資運用業]（代表）	・資源、エネルギーの正常な供給に努める必要がある。
	▲	司法書士	・物価の上昇が続くなか、中東情勢も先が見通せず、節約志向が強まることから、景気が良くなるとは考えにくい。
	▲	その他サービス業 [受託調査]（調査担当）	・中東情勢の変化により、原油不足は当分続くと予想される。
	▲	その他非製造業 [衣服卸]（経営者）	・ポリ袋や紙類の値上げに加えて、燃料価格の高騰による仕入コストの中期的な上昇が予想される。また、それに伴う販売単価の引上げで、販売数量の減少も見込まれる。価格転嫁の動きにはタイムラグがあるため、一時的な減益が避けられない。
	×	食料品製造業（従業員）	・資材メーカーからの仕入れ数量が極端に調整され、一部で納入停止といった情報も入ってきている。
	×	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・ナフサが需要に対して不足しているため、生産の減少が避けられない。業種によってはコロナ禍での状況よりもひどくなる。
	×	化学工業（経営者）	・中東の海峡の封鎖以降、原材料価格の大幅な上昇があり、追加値上げも予定されているほか、原材料の入荷が徐々に困難になってきた。この状況が続けば、業務自体が継続できなくなる。
	×	金属製品製造業（製造担当）	・現在の情勢をみると、今以上に良くなることはない。
	×	輸送用機械器具製造業（経営者）	・例年の動きであるが、取扱製品の需要期が過ぎ、6月の梅雨や7月からの気温の上昇が悪材料となる。さらに、製品価格の上昇もあるなど、今後3か月は景気の良くなる材料がない。
	×	その他製造業 [履物]（団体職員）	・中東情勢の不安定化が長引くことによる、原材料不足が懸念される。
	×	通信業（管理担当）	・原油価格の高騰に伴い、物価の上昇が進む。
	×	金融業 [保険]（経営者）	・燃料費や原価の上昇、材料の不足といった、悪い材料しか見当たらない。
	×	不動産業（営業担当）	・中東情勢の影響により、石油由来製品が入ってこなくなり、建築関係の動きが止まっている。それに伴い、今後はますます景気が悪くなる。
	×	その他サービス [自動車修理]（経営者）	・中東情勢の影響で原油不足となっている。
	×	その他非製造業 [電気業]（営業担当）	・明確な物価高対策や景気対策が実施できていない。
雇用 関連 (近畿)	◎	—	—
	○	民間職業紹介機関（職員）	・梅雨が明けて暑さが厳しくなれば、求人数が増えると予想される。
	□	人材派遣会社（役員）	・中東情勢の行方が不透明ななか、これまでの影響に変化があるかどうかも見通せない。

□	人材派遣会社（支店長）	・第2四半期までは、余り動きがないと予想される。
□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・夏物商戦のプロモーションも、地元企業には景気回復につながる大きな動きがみられない。
□	職業安定所（職員）	・離職や転職の動きについて、例年と大きな変化はみられないが、中東情勢の影響が不透明なため、引き続き情勢を注視する必要がある。
□	職業安定所（職員）	・以前から続いている物価の上昇に加え、原油価格が高騰しているほか、石油関連製品の動きにも変化が出始めている。今後、国際情勢の変化がどの程度続くのかは、予測が難しい。
□	民間職業紹介機関（営業担当）	・夏のインターンシップのための広報は最盛期であり、今後は横ばいか、やや鈍化する見込みである。前年の学生の動きをみると、夏はインターンシップやオープンカンパニーに参加するものの、まだ企業を探す段階ではなく、下半期以降は動きが急激に鈍くなると予想される。それを見越して、今年は企業側も特に前期の広報に注力している。
□	民間職業紹介機関（営業担当）	・世界情勢などの不確定要素がある。
□	その他雇用の動向を把握できる者	・中東情勢の変化による雇用への影響が気になるが、現状では休業や解雇といった事案はほとんどない。ただし、仕入価格の高騰や物流の停滞がこれ以上ひどくなれば、休業のおそれがあるという声も一部であり、状況を注視している。
▲	人材派遣会社（営業担当）	・中東情勢の影響が長引くと、観光産業への影響が出てくる。また、物価上昇による生活不安を抱えた、シニア層の求職活動が更に活発化する。
▲	人材派遣会社（営業担当）	・現状は、リーマンショック後のような深刻な景気後退には陥っていないものの、生成AIの台頭などによる事務職求人への減少という構造的な変化に直面している。企業業績の動きが採用活動の変化に直結するなか、既存社員の賃上げが優先されることで、新規採用が抑制されるなどの悪影響が生じる可能性は否定できない。
▲	人材派遣会社（管理担当）	・日中関係の変化に始まり、直近では中東情勢の影響も出ている。それに伴う物価の上昇で、しばらく良くなるとは考えにくい。
▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・経済格差が開く一方で、改善策は見当たらないため、国内全体で悪くなっていく。
▲	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響で、事業所からは先行きを不安視する声がかかる。
▲	職業安定所（職員）	・石油の輸入問題で事業所から聞かれるのは、不安の声ばかりである。
▲	職業安定所（職員）	・中東情勢の変化により、先行きが不透明と考えている事業所は多い。今後の調達や注文の状況により、人員の削減や雇用調整助成金の利用を検討するという声もある。
▲	民間職業紹介機関（営業担当）	・年間を通して、最も動きが落ち着く時期であり、求職者、求人共に少なくなる。
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢の影響が収束する見込みが立たず、短期間での停戦も考えにくい。
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢の影響による物価上昇や、食料品の消費税減税の実現が注目される。また、責任ある積極財政の推進や診療報酬の改定などが、医療・福祉業界では期待される。現場では人手不足感はあるものの、雇用の増加につながる力強さには欠ける。今後、求人に積極的であった事業所の勢いが業績の悪化で止まれば、人手不足の事業所に人材が流れてくるよりも、業界からの人材流出が進みかねない。
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・雇用形態の見直しや、AIの活用を理由とした採用人数の抑制などが、企業の間で始まっている。今後は大学生の就職状況が徐々に冷え込むことが予想される。
×	*	*